

大阪バイオメディカル専門学校における QC 検定の導入・活用事例

学校法人佐藤学園 大阪バイオメディカル専門学校
バイオ学科・バイオ技術学科



1. 学校概要

学校名：学校法人佐藤学園 大阪バイオメディカル専門学校

所在地：〒542-0082 大阪府大阪市中央区島之内1丁目14-30

学生数：約 650 名

URL：<https://www.obm.ac.jp/>

2004年（平成16年）4月に開校した当校では、「生きる」を支えるプロを育成する学校として、医療技術・食品・環境など人間の生活に密着し、iPS細胞でも話題のバイオ業界と、少子化・高齢化社会の中で人材不足が続く医療・福祉・こども関連業界の職業教育を行っています。「為世為人」、すなわち、世の為、人の為、心を磨き、技を磨き、人を支え、未来を築く人材を育てることを綱領に掲げています。

学科としては、バイオテクノロジー分野に対する「バイオ学科」及び「バイオ技術学科」と、医療・福祉・こども関連分野に対する「医療事務総合学科」及び「医療福祉心理学科」を設置しています。

文部科学省の「職業実践専門課程」に認定されております。これは、専修学校の専門課程であって、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成することを目的として専攻分野における実務に関する知識、技術及び技能について組織的な教育を行う教育機関として文部科学大臣が認定するものです。

関連施設には、OBM リサーチセンター（バイオ関連研究受託）があり、専門学校で唯一、研究受託機関を併設しています。

また、加盟団体は、NPO 法人近畿バイオインダストリー振興会議、日本バイオ技術教育学会、日本組織培養学会、一般社団法人日本病院会、一般社団法人医療秘書教育全国協議会、一般社団法人日本ソーシ

ネットワーク教育学校連盟、一般社団法人大阪精神保健福祉士協会、全国専修学校各種学校総連合会、全国工業専門学校協会、全国専門学校日本語教育協会、一般社団法人大阪府専修学校各種学校連合会となっています。

2. QC 検定導入の経緯

QC 検定を導入した目的は、バイオ技術者に必須である「品質管理意識」を向上させることにあります。当校バイオ学科・バイオ技術学科の学生たちの多くは、医薬品、食品、化粧品、細胞培養など、製造や品質管理分野への就業を志し、日々実習に励んでいます。こういった分野での品質を保証するには、製品に関する品質試験を行うことはもちろんのこと、原材料や製造プロセスに関連する要素やその影響も把握し、理解しておく必要があります。性状の一致性、実験操作の再現性、コンタミネーション（不純物）の除去など、信頼できるデータを安定して提供するためには、多くの要因に関して常に品質管理意識を持つことが肝要です。こういった人材育成に力を入れている取り組みの一つとして、必須検定に QC 検定を掲げています。

3. QC 検定導入の効果(受検のメリット)

大きく二つの側面において、QC 検定の導入効果を感じています。これらから、目的である、バイオ技術者に必須の「品質管理意識」を向上させることが達成できていると考えています。

・授業・実習への活用

本学科の実習では多くの実験データの取り扱いがあります。したがって、表計算ソフトで統計解析する際に、すぐに役に立ちます。取得したデータに対して客観的に見る意識が生まれ、異常値やばらつきによく気付くようになりました。

・就職活動や就職後の活用

本学科の学生は、企業の品質管理部門、製造部門に配属されるケースが多くあります。就職面接の際、QC 検定を取得していることについて、お褒めいただいた学生もいます。このように、就職後に活躍を期待される配属部署の候補・性質との関係から、QC 検定合格が話題になったり、有利に働いています。実際に、QC 検定を定期的に受検している企業への就職も少なからずあります。

4. QC 検定に関する取り組みの具体例

QC 検定の受検対象者、受検対策・学習方法及び使用教材については、次のとおりです。

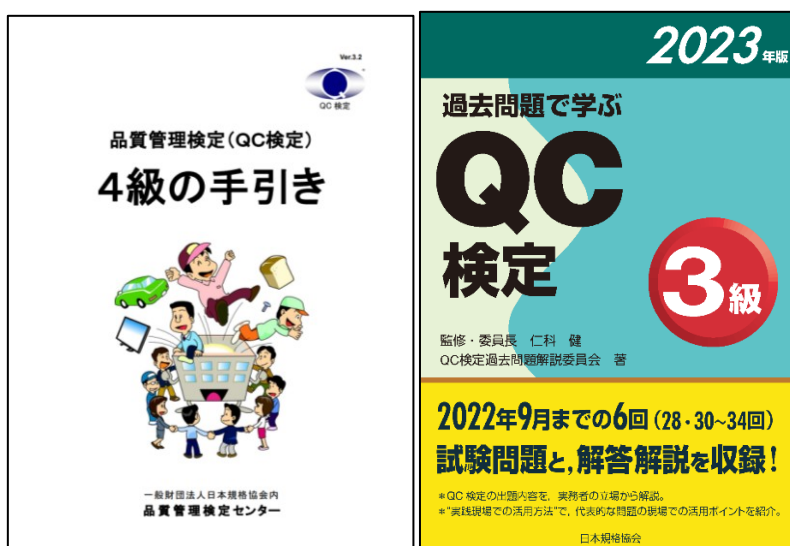
・受検対象

対象学生	QC 検定の受検級	受検対象者数
バイオ学科 1 年生	4 級	約 80 名
バイオ技術学科 1 年生		
バイオ学科 2 年生	3 級	約 40 名

・受検対策・学習方法

QC 検定	学習方法
4 級	<p>春休み中に QC 検定センターの HP 上に公開している『4 級用テキスト（4 級の手引き）』の印刷物を通読し、それに基づいた課題プリントを出して、学習指導を行っています。</p> <p>この課題は当校の講師がオリジナルで作成しています。用語の意味を問うようなごく簡単なものになっています。</p> <p>なお、その他の問題集等は使用しておらず、『4 級用テキスト（4 級の手引き）』をしっかりと読み込むことで 89.0% 以上の合格率を維持しています。</p>
3 級	<p>書籍『過去問題で学ぶ QC 検定 3 級』（日本規格協会）を参考に、講師作成の課題プリントを出して学習指導を実施しています。3 級受検者は、就職活動対象の年度生（2 年生）のため、就活を優先させなければならず、やや低い合格率となっています。</p>

- ・使用教材：[『4 級用テキスト（4 級の手引き）』（日本規格協会内 QC 検定センターの HP）](#)、[書籍『過去問題で学ぶ QC 検定 3 級』（日本規格協会）](#)



5. QC 検定受検者の実績

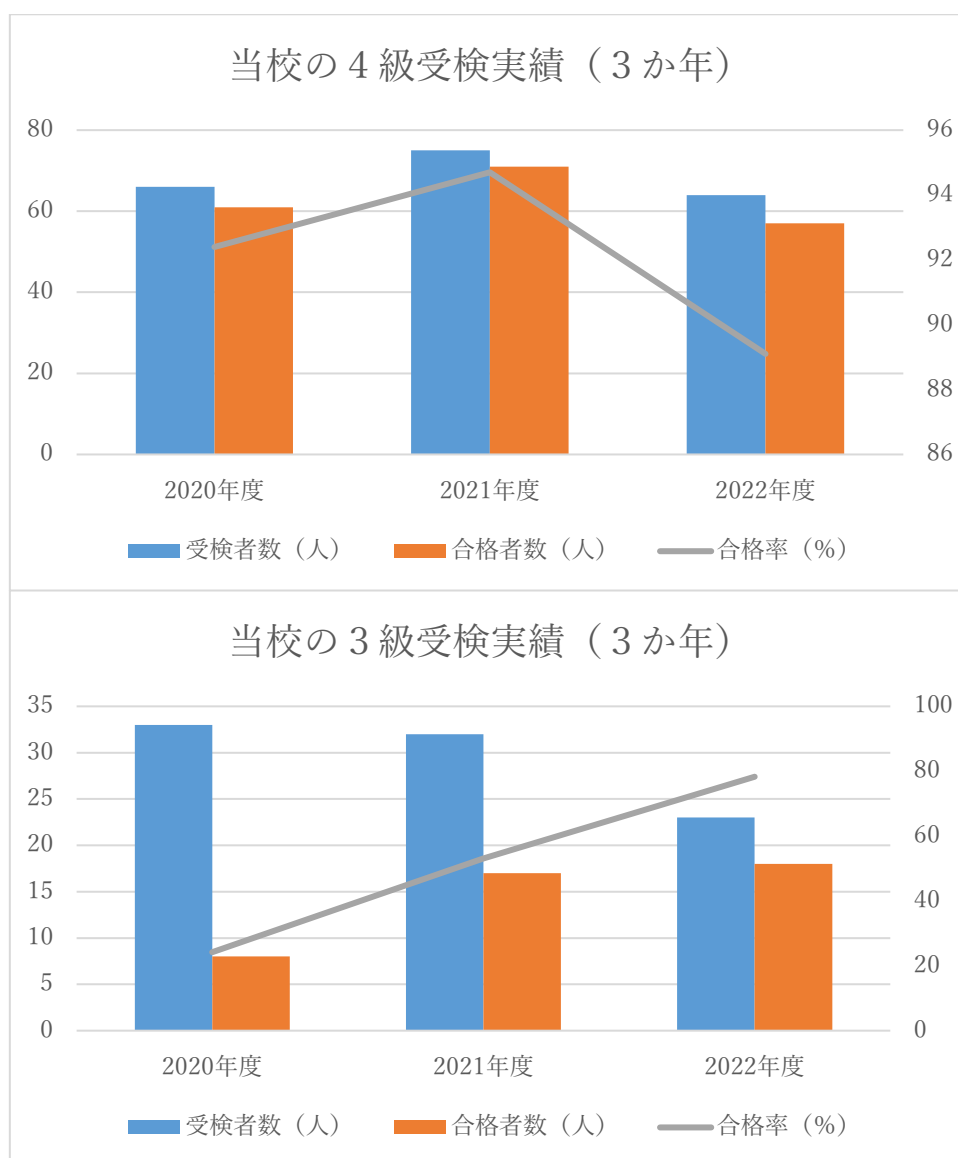
当校における 2020 年度から 2022 年度の受検状況は次のとおりです。4 級に関しては、全国平均以上の合格率になっています。3 級に関しては、年々合格率が上がってきています。

<4級>

2020年度	受検者数 66名	合格者数 61名	合格率 92.4%
2021年度	受検者数 75名	合格者数 71名	合格率 94.7%
2022年度	受検者数 64名	合格者数 57名	合格率 89.1%

<3級>

2020年度	受検者数 33名	合格者数 8名	合格率 24.2%
2021年度	受検者数 32名	合格者数 17名	合格率 53.1%
2022年度	受検者数 23名	合格者数 18名	合格率 78.3%



6. 合格者の声

QC 検定を受験して良かった点は、品質管理の基礎や理論などを新しく学ぶことができたことです。そのため、就職してからも今回得ることができた知識を活かして品質管理に取り組んでいき社会に貢献していきたいと考えています。バイオ学科2年 I・Y

7. QC 検定に期待すること

本学科では、通常の授業科目（必須）の一つに「QC 検定」を組み入れています。合格することによって、公正な目線で当該科目の習得度を測れるとともに、QC の基礎知識を持っていることの証明になり、就職活動にも役立てられています。学習の過程において、ビジネスマナー等を得られることも大きな利点です。社会に出れば、実践力を求められることとなります。学生のうちから基礎知識を身に付けておくことは、将来、大いに羽ばたき、社会へ貢献できる人材となり、活躍やさらなる自己成長が期待できます。

そのためにも、QC 検定には、3 級や 4 級においても、より社会での実践イメージが持てるような取り組みを期待します。

当校では、このような人材を今後も輩出すべく、QC 検定を教育の一環に位置づけ、今後もまい進する所存です。